

講義名	経済学特論			授業形態	
担当教員	仲間 瑞樹	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

この講義では大学院生が経済学分野の学習を行う場合、あるいは経済学分野の論文や専門書を読み、理解するために必要となる基礎的な経済理論（ミクロ・マクロ経済学両分野）を学びます。大学院生として論文を執筆する際には、新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出す力が求められます。この講義での学習を通じて受講生には、そのような力を蓄えてもらいます。

到達目標

- (1) 経済学系の論文、専門書を自力で読むことができるようになる
- (2) 基礎的な経済学の理論を自身の手で活用できるようになる

提出課題

毎回の講義で講義理解を確認するための宿題を課す。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

宿題の解答を配布する。

評価の基準

宿題（45%）
期末試験（55%）

履修にあたっての注意・助言他

学部高年次レベルのミクロ経済学、マクロ経済学そして学部レベルの経済数学を一部利用しながらも、極力平易な説明を心がけます。数学については高校の数学、数学レベルに戻り説明をする予定です。講義内で扱う課題問題の内容によっては、受講者と教員の間でディスカッションを行う場合があります。

教科書

.使用しない。

参考図書

.経済数学入門の入門。	田中久徳	岩波書店	9784004317074
.経済成長と動学。	大住圭介・川畑公久・岡井修二	勁草書房	4326547839
.入門 マクロ経済学 第6版。	中谷巖・下井直毅・塚田裕昭	日本評論社	9784535557956

その他

必要に応じて講義中に資料、論文等を配布する。参考文献も講義中に必要に応じて紹介する。

授業計画

- 1 経済数学の復習 微分の意味
- 2 経済数学の復習 最大と最小
- 3 経済数学の復習 ミクロ経済学（効用最大化問題）への適用
- 4 経済数学の復習 ミクロ経済学（利潤最大化問題）への適用
- 5 経済数学の復習 マクロ経済学（IS-LM分析）への適用
- 6 個別モデルの学習（2期間世代重複モデルの概要）
- 7 個別モデルの学習（2期間世代重複モデルを解く）
- 8 個別モデルの学習（2期間世代重複モデルと課税政策）
- 9 個別モデルの学習（2期間世代重複モデルと年金政策）
- 10 個別モデルの学習（2期間世代重複モデルと遺産・政府の政策の無効性）
- 11 個別モデルの学習（2期間世代重複モデルと貨幣）
- 12 論文を読んでみよう（論文内のモデル構造の把握）
- 13 論文を読んでみよう（論文内のモデルを解く）
- 14 論文を読んでみよう（論文内の帰答の解釈）
- 15 論文を読んでみよう（論文内の分析の限界点）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義内容の復習（2時間）
宿題（2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この講義は、経済学部の大学院生が修了時に身につけておくべき知識・能力のうち、特に「知識を知識に転換することができる、論理的思考力を持った人材」、「創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材」との結びつきが強い。講義で扱うトピックを通じて、物に「現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき問題を設定することができる（課題発見力）」、「さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる（構想力）」を養い、修士論文作成時に役立ててもらうことを目標としています。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

該当せず

実務経験の有無及び活用

該当せず

備考

経済学の基礎的な理論（ミクロ経済学・マクロ経済学分野）を学習するため、これら理論に対する関心が求められます。